

まずは自然体でいること

五條市立五條東中学校 3年 今西 優空

『友だちに好かれようなどと思わず、友だちから孤立してもいいと腹を決めて、自分を貫いていけば、本当の意味でみんなに喜ばれる人間になれる。』私は岡本太郎さんのこの言葉を知り、自分自身の胸に留めておかなければと思っています。

1970年。戦後の復興を遂げ、高度経済成長へと歩みを続ける日本で万国博覧会が開催されました。そこではアポロ12号が持ち帰った「月の石」を始め、数多くのパビリオンで大変な混雑だったそうです。そして、その中でも一際異彩を放っていたのが岡本太郎さんの「太陽の塔」。その大きさに、またその独特で異様ともとれる風貌に人々は息を呑んだに違いありません。そんな「太陽の塔」には批判もたくさんありました。「あんな見苦しいものはダイナマイトで爆破しろ」という声もあったくらいです。しかし、岡本太郎さんは自分を貫いて作品を創作し続けました。そして、再び万博の誘致などで岡本太郎さんにも注目が集まり、私は冒頭の言葉と出会いました。

私は今、友人関係で悩んでいます。それは今までずっと受け身の姿勢でいてしまった自分が原因かもしれません。私は3歳と9歳のときに引っ越しを経験しました。そして、小学校4年生に上がる時には転校もしました。友だちができるか不安だったけれど、そのときは周りの人が話しかけてくれて、すぐ友だちになれました。中学校に入学するときも、他の小学校から来た人と仲良くなれるか不安でしたが、このときも周りの人に話しかけてもらったり、同じ小学校だった仲の良い人が一緒にいてくれたりしたため、友人関係で大きく悩むことはありませんでした。

しかし、この春。中学校2年生まで仲の良かった友だち、自分が心を許せて頼りにしていた友だちとクラス替えで離れてしまいました。今までその人たちを頼りにし、なか

なか自分から話すことができなかった私は、新しい環境に馴染めず、会話を広げることができませんでした。特別、周りの人に無視をされているわけではありません。でも、会話がすぐに終わってしまう日々が続きました。「もしかしたらみんな私と話したくないのかもしれない…」そうやって悩み、思い切って母に相談しました。すると母は、

「あんただけが一人じゃない。明日、周りの子のこともよく見ておいで。」

と答えてくれました。その次の日、教室をよく見てみると、確かに一人で行動している人もいました。本を読んだり、課題をしていたり。一人なのは自分だけではないということが分かり、少し気持ちが楽になりました。でも、それを素直に受け入れられるほど私はまだ大人ではありません。「好きで一人になっているわけではないのに…」そんな気持ちが胸の中にあります。

まだ私は悩んでいる最中です。毎日ながきながら模索しているところです。自分から話しかけて会話が途切れてもまたチャレンジしたり、一人でいることが多い日もあったり。でも、岡本太郎さんの言葉は常に胸にとめておこうと思っています。

『友だちに好かれようなどと思わず、友だちから孤立してもいいと腹を決めて、自分を貫いていけば、本当の意味でみんなに喜ばれる人間になれる。』

友だちが悪いわけでも、クラス替えが悪いわけでもありません。そして、なかなか話しかけられない私が悪いわけでもないと思っています。まずは自然体でいること。自分の気持ちや考えに素直になって、自分で自分を受け入れること。そうすることで友人関係も少しは良好になっていくと考えています。